

氏名	宣 超
学位	博士
専門分野の名称	経済学
学位授与番号	博甲第4444号
学位授与の日付	平成23年9月30日
学位授与の要件	社会文化科学研究科社会文化学専攻 (学位規則(文部省令)第4条第1項該当)
学位論文題目	Empirical Analyses of Chinese Urban and Regional Economic Growth (中国の都市及び地域経済の成長に関する実証分析)
学位論文審査委員	主査・教授 中村 良平 教授 張 星源 准教授 釣 雅雄 追手門学院大学 教授 衣笠 達夫

学位論文内容の要旨

本論文は、中国の都市地域における成長要因と生産性格差、生産効率性に関する計量経済の実証分析である。論文は、主として3つの大きなトピックスから構成されている。

研究の背景と目的の第1章に続く第2章では、中国都市成長と地域間格差の実態について包括的なレビューを行っている。そこでは、人口分布、FDIから地域間格差の要因と動向に関して簡単な分析がなされている。第3章から第5章までの3つの章が、本論文のコアとなる章である。

まず、第3章では、都市経済成長とその要因であるFDI、資本ストックの変化、社会資本の変化の関係式とFDI立地モデル式とが同時体系の方程式で定式化、推定されており、新たな分析のフレームワークを提示している。推定結果からFDIや社会資本ストックの貢献度の有意性、また同時に都市集積がFDIをもたらしていることが実証された。

第4章では、省内における都市規模分布が地域経済成長に与える影響を分析したものである。これは、一極集中型の地域と多極分散型の地域とでの成長に有意な差があるかどうかを検定するものである。Zipfの都市規模法則の式を応用して新たな都市規模分布指数を加えることで、地域経済成長に対するTFP効果の一要素として、都市規模分布の貢献度を定量的に明らかにしている。東部沿岸地域では、一部の都市への集中が地域成長に対してポジティブな影響をもたらしてきたが、その程度は近年若干の低下を示していることが明らかとなった。中部地域では都市規模分布のばらつきは大きく、それが成長に対して一定の影響を示していることがわかった。

第5章では、都市の集計レベルでの生産効率性・非効率性の定量化とその要因の分析を行っている。確率的フロンティア生産関数を用いた中国の都市での実証分析としては初めてのものと思われる。複数時点のデータを用いたパネル分析であり、また効率性に影響を与えると考えられるFDIや大規模事業所の割合などについても非効率性の要因として3SLSを用いた同時推定がなされている。分析結果としては、都市規模に対する生産効率性・非効率性の違いが明確に現れているとは言い難いが、広東州の諸都市に於いて比較的高い効率性を示す都市が存在していることが明らかとなった。また、中規模の資源都市において効率性の高さが示された。

第6章は、全体のまとめと政策的含意について述べている。そこでは、FDIと既存集積との関係の重要性、都市規模の大きさと地域全体の成長戦略の関係を考慮すべきであることが示唆されている。

学位論文審査結果の要旨

論文審査会は、7月15日木曜日、16時から18時まで、4名の審査委員（内1名は招聘教授）によって経済学部中会議室で開催された。申請者の論文内容の報告に引き続いて審査委員との質疑応答が行われた。

審査委員全員から、論文全体としては英語表現の改善がなされており、予備論文に比べて各章の内容が充実しているという評価があった。各章を中心とした単独論文では、査読付き雑誌への受理、また条件付きながらの国際的雑誌への採択もなされている点も評価された。

質問では、第3章について、説明変数に大学卒業者の割合が成長率に対して入っているが、卒業者が地域内に留まる割合が低いとこの変数の役割はどうか。また、都市経済成長のTFPモデルにconvergenceを説明するための一期前の一人当たりのGRPが入っているが、これはモデルから導出されるものではないことと、それによって推定方法が変わってくる可能性があることが示唆された。これに対しては、若干の再推定作業は伴うものの、一定の解釈を加えることで十分に対応ができることが述べられた。

第4章では、パレート分布におけるランクサイズルールの位置づけに関して質問がなされ、それに対して都市経済学における都市順位規模法則のモデルで説明がなされた。

第5章については、高度な分析手法の適用とクリアな実証結果に対して高い評価が示された。ただモデルの定式化から、どうしても資源都市や工業都市の効率性が高くで、商業都市のそれが低く出る傾向にある。それにはダミー変数で対応するか、あるいは解釈の時点で十分に配慮すべきであろう。また、確率的技術非効率性の項とTFP変化率との関係を明示的に示しておくべきであるという意見も出された。

最終的には、上記の問題点については重要な部分もあるが、最終製本までには十分に対応可能であり、また今回提出された博士審査論文の価値を損なうものでないことが審査委

員で確認された。

全体としては、中国都市地域経済事情を的確に捉えた問題設定、モデルの構築における優れた着眼点、データの構築力、高度な計量分析などについて一定の評価が与えられた。また、特に、都市間の生産効率性の比較分析については、本人が自覚している以上に潜在的に高い発展性を有しており、オリジナリティも高く、高い評価がなされた。以上の点を踏まえて、審査委員一同一致によって申請論文を博士学位論文として合格と判断した。